

# バス用 クーラー 開発を断念

## バス用クーラーの開発と製品展開

当社では、1960（昭和35）年より電車用クーラーの試作研究に着手し、翌年、これに先立って主要部品は米国から輸入し、バスの仕様に合わせた改造を施してバス用クーラーを商品化した。1963年10月には、クーラー部門を専門に扱う冷凍機部を新設し、この研究に本格的に取り組むこととなった。

製品群としては、大容量の観光バスや路線バス用では、クーラー専用のサブエンジンを有し、やや容量の小さいものは、メインエンジンからベルト式無段変速機を介してエンジンの回転数に関わらず略一定の回転数にして伝達し、コンデンシングユニット（圧縮機・凝結器等をユニット化）とクーリングユニットを駆動し、冷風を作り出す方式である。また、中容量のマイクロバス用では、メインエンジンで駆動するギアオイルポンプの動力を利用した油圧モータを用い、コンデンシングユニットとクーリングユニットを駆動して冷風を作り出す方式とした。

さらに乗用車への転用も図り、こちらはコストダウンを狙って圧縮機・凝結器をクーリングユニットと組み合わせた。この製品は、日産自動車での試験評価の結果、「セドリック」等への純正部品としての指定を受けることができた。



第9回全国自動車ショーへの出展（1962年）



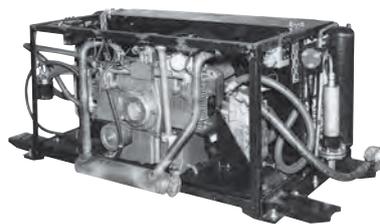
助手席側に当社製品を搭載したセドリック（日産自動車）

## バス用クーラーからの撤退

しかし当社では、コンデンシングユニット・クーリングユニット・圧縮機・凝結等の重要部品を内製化せず、部品単位で米国から輸入し、各車両に合わせたシステム製品として販売する形態を採っていた。そのため、キーテクノロジーの基盤が無く、さらに品質確保・コスト低減・アフターサービスへの体制構築等、ビジネスモデルとしての諸課題を克服することができないまま、1965年9月に冷凍機部を廃止し、バス空調システム開発事業の継続を断念するに至った。



当社製品搭載バス（日本国有鉄道）



コンデンシングユニット



カークーラー用クーリングユニット